

1 自己評価

I 評価結果（別紙参照）

II 分析・改善方策

- ① 個別移行支援計画、個別の指導計画を活かした授業づくりを進め、授業力の向上では、指導案を書いて一人一授業を行った。指導案を書くことにより、授業に関する考えを整理したり、支援方法の工夫を図ったりすることができた。

キャリア教育の視点に立った指導内容の体系化を図ることについては、各コース、生活学習においてキャリア教育の視点から指導内容を整理することができた。今後は、この指導内容の効果的な指導方法を検討していく必要がある。

- ② 専門教科における指導の専門性を高めることについては、各コースとも外部講師による授業及び地域の研修施設や事業所での研修により、教師の専門的知識及び技能の向上を図ることができた。今後とも外部講師の招聘や事業所等での研修を継続して行いたい。

関係機関と連携したアフターケア体制の確立を図ることについては、外部機関と連携しながら就労継続が難しいケースに対応したが、2名の離職者が生じた。来年度は、より細かく卒業生の就労状況を把握し、早期の対応ができるようにしたい。

- ③ 保護者、地域、関係機関等に積極的に情報発信することについては、定期的に校長だより・学年通信・ブログ等で情報発信を行った。また、定期の学校説明会・学校公開の他、近隣小中学校の教員や保護者の学校見学や教育相談を随時受け入れた。そのため、本校の受験倍率が大幅に向上した。

地域の行事やボランティア活動に積極的に参加することについては、これまで継続してきた活動に加え、新たにジュニアトライアスロン大会のボランティアに参加した。今後とも地域の行事やボランティア活動に積極的に関わっていける環境整備をしていきたい。

地域の高等学校等との交流及び共同学習の取組では、倉敷鷺羽高等学校と交流及び共同学習を3回行った。来年度は、交流及び共同学習の内容の検討を行い、両校の生徒にとってより有意義な活動となるようにしていきたい。

2 学校関係者評価委員名

重松 孝治（川崎医療福祉大学 講師）
大島美栄子（倉敷障がい者就業・生活支援センター 所長）
片沼 靖一（琴東地区社会教育コミュニティ推進協議会 会長）
三宅 康二（児島産業振興センター センター長）
矢野 幸男（児島ハローワーク 統括職業指導官）
市原 由美（本校 PTA 会長）

3 学校関係者評価

- 指導案を書いたの一人一授業に取り組んだ結果、専門性は高まっているようだ。教職員アンケートを見ると、評価が昨年度より下がっている項目があり、開校時からの教職員と途中人事異動で入ってきた教職員との間にギャップが生じているのではないかと。教職員の入れ替わりがあっても、開校当時のモチベーションを維持する方法を検討する必要がある。
- ボランティアや募金活動を地域の他校と一緒にやる方が交流にもなり、有益だと思う。また、主催者側にボランティア保険を掛けてもらう必要もある。児島産業振興センターの実習では、地域のボランティアの方との交流もできており、センターを有効に活用している。
- 携帯電話・スマホの普及により、若い人のコミュニケーション能力が低下している。そのため、人間関係作りにつながるコミュニケーションの指導を若いうちにしてほしい。
- PTA活動に積極的に参加する保護者より、あまり参加されない方の学校に対する考えを知る必要がある。連絡帳等でこまめに様子を知らせてくださる等、学校は分かりやすく伝えてくださっていると思う。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- 従来の学校経営方針や計画を新しく赴任した教職員にスムーズに継承しつつ、内外の環境変化に即応した学校運営を行う。
- 地域の方や学校と連携したボランティア活動や交流・共同学習をより一層進める。
- キャリア教育の視点に立ち、特別支援教育の考えを反映させた授業づくりを進める。